

太宰府の文化財

431

太宰府の農業水利

今年も桜が咲いて春本番というところでしょうか。農家はもう田んぼの手入れをしていることと思えます。江戸時代以降、太宰府市域は門前などの一部を除いて、農村によって構成されてきました。生業は田を中心に営なみ、田に水を引く農業水利は特に重要なもので、自然とのやり取りの間で長い時間をかけて築てきました。

農業水利には、河川から取水する用水路で田を潤す「井出掛り」、堤を築いて築造した溜池を水源とする「堤掛り」、また、降水や湧水を水源とする「天水掛り」に大別されます。

江戸後期にあたる享和2（1802）年に編まれた『御笠郡村明細記』によると、現在の太宰府市域である十二村の田数は約434町となっています。これに関わる井出の数は65、溜池の数が37カ所とされています。また、これらによる灌漑の割合は井出掛りが45%、堤掛りが

38%、天水等が17%の比率になっています。これらで434町を潤していたわけですが、川や溜池から田まで水を引いてくる用水路も必要です。用水路には、市史編纂に際しての調査でさまざまな工夫がされていることが分かりました。「仕掛け水路」は別の谷から山を廻して水を引いています。なかには素掘りのトンネルがいくつもあります。川や道路を横断する際には、サイフォンの原理で水を通してもしました。

昭和35年以降、水田は減少して、令和元年には146町ほどになっています。これは人口の増加による、農村から住宅都市への変遷を物語っています。このような中、数百年単位で整備され、維持管理されてきた農業水利も変わってきて、水利として使われなくなった溜池や、管理が

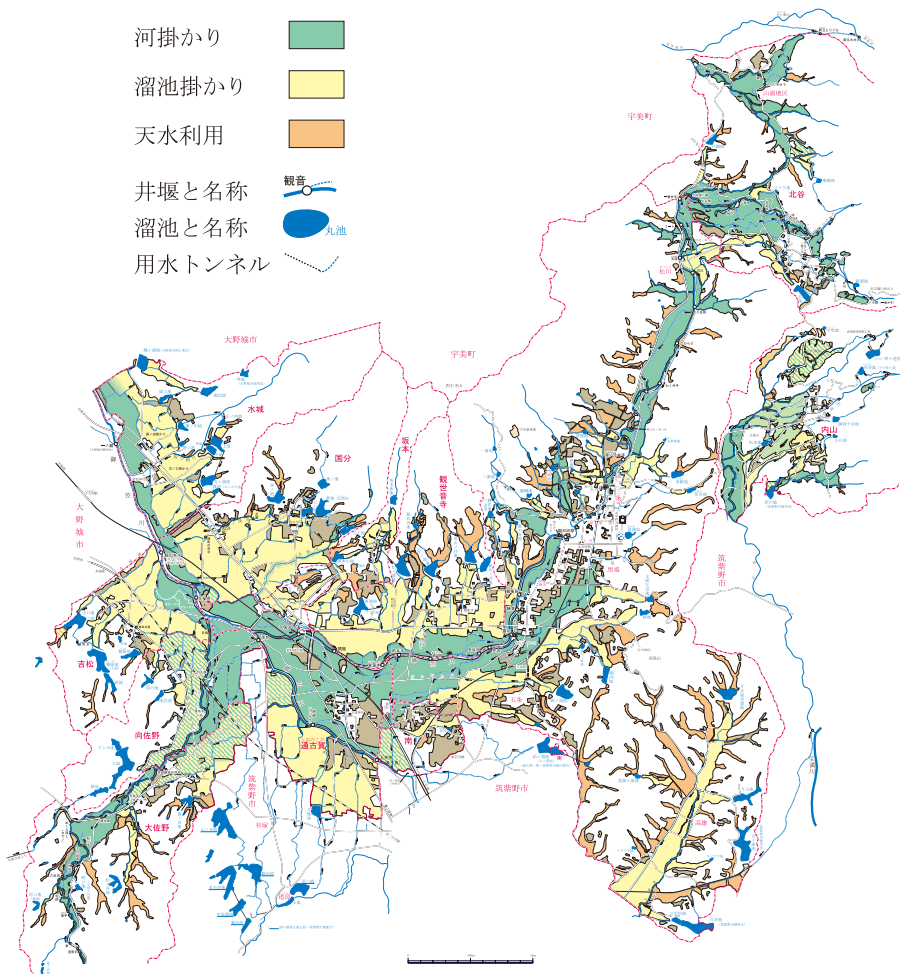
難しくなった仕掛け水路などが現れてきています。田んぼが点在するため、田と田を繋ぐ水路の距離が長くなり管理が大変になってきているなど、農業水利という私たちを支えてきた基盤は危機的な状況にあります。

左図は市内の水利図ですが小さ

くて見えにくく、申し訳ございません。『太宰府市史環境資料編』には大判の水利図が収録されています。興味を持たれた人はぜひご覧いただければと思います。この文章も同書を参考としています。

（文化財課 城戸康利）

- 河掛かり
- 溜池掛かり
- 天水利用
- 井堰と名称
- 溜池と名称
- 用水トンネル



太宰府の水利図（『太宰府市史 環境資料編』（2001年、太宰府市）

編集／太宰府市総務部経営企画課：〒818-0198
☎092(921)2121 FAX(921)1601

太宰府市観世音寺一丁目1番1号
✉ keiei-kikaku@city.dazaifu.lg.jp

リサイクル適性(A)

この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。

太宰府市公式SNSの
フォローをお願いします！

